

VIVID LETTER

No.19(10周年記念号)発行 2017/11/1

10周年を迎えて	1
10周年に寄せて	2~3
10年のあゆみ	4~5
年表で振り返る10年	6
10周年記念イベントお知らせ	6
VIVID活動レポート	7
お知らせ、その他	8

何でも相談
平日
午後1時~3時
専用電話
03-6380-2015

“VIVID”は高次脳機能障害者の社会参加を支援する特定非営利活動法人です。

特定非営利活動法人 VIVID(ヴィヴィ)
〒160-0021
新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル601
TEL&FAX 03-5849-4831
Eメール hbd-vivid@vivid.or.jp
HP <http://www.vivid.or.jp>

法人化10周年を迎えて ともに仕事をつくる活動へ

これまでとこれから

NPO 法人 VIVID 代表理事 池田敦子

ある時、脳内出血で遷延性意識障害体幹四肢麻痺になった息子(T)の入院中の病院と家族の連絡ノートに、こんな記録がありました。「Q:あなたは、自分が障害になったことを、自分でよかったと思いますか? T:瞬き2回(YES)」「Q:障害になったことを不幸と思いますか? T:瞬きなし(NOまたは不明)」「Q:あなたは私たちの前に体を投げ出して、たくさんのかんことを教えてくださいました。ありがとうございました。あなたはきっとホーキング博士のようになれますよ。T:目が潤んでいました」。これは、看護学校の実習生を指導する先生との会話です。

ある日、帰宅した私は、声も言葉も出せない息子の大笑い(息の音)を聞きました。その日の支援者は同い年の男性ヘルパーでした。「あなたは、YES、NOをはっきり伝えれば一人暮らしもできるんだよ」と言ったら、Tが大爆笑したというのです。「あなたの意思表示さえあれば、それを支援するのが僕たちの仕事」と語りかけていました。

その頃、若者らしく同世代の人たちと交流できる場を求め、障害者のデイサービスを訪ね回り、Tの通所希望を伝えました。しかし18歳を超えて発症した中途障害者の受け入れは制度上できないと全て断われました。2003年の支援費制度ができるまで障害者はサービスの選択ができませんでした。制度が変わるまで待ってられないという思いは、自分たちでつくるしかないという考えに変わり、実現にむけ、私は2005年に社会人専門職大学院に入学。しかし、息子はその半年後に他界。

そんな中、卒業間際に、若いクラスメイトが脳出血で倒れる事態に遭遇し、私は見舞いの場で思わず「一緒に働く場所を作ろう」と持ち掛けていました。座位保持装置に座ったTが、瞬きでスイッチを押してピンポンと来客を知らせる受付

の仕事をしている—そんな姿を空想し重ね合わせて思わず出た言葉でした。・・・そんな中で「NPO 法人 VIVID」はクラスの有志(その経験を社会に生かさなきゃ)が集まって10年前の2007年7月に立ち上がりました。

高次脳機能障害に関する公的サービスは、2001年から5年間、国が実施した「高次脳機能障害者支援モデル事業」の中で医学的リハビリテーションや生活訓練、就労・就学支援などの社会参加支援のためのプログラムとして開発されました。2005年10月には障害者自立支援法が成立し、数年の議論を経て2012年3月、障害者総合支援法へと変わり、高次脳機能障害者もサービス利用の対象者に加わりました。

2008年VIVIDは新宿区に協働事業提案を行い2009年にミニデイ・なんでも相談・セミナーをスタートさせ、2011年に同内容が新宿区独自の「高次脳機能障害者支援事業」となり、改めてVIVIDに事業委託され今日にいたっています。

事故や病気による脳損傷が原因で生じる記憶障害や注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などが複合的に現れる高次脳機能障害は、見えない障害・わかりにくい障害ともいわれています。私たちはこの10年、当事者への直接支援サービスを提供しながら、多くの専門家、当事者、家族、地域の方々に出会い、障害の理解を深め支援の方法を学んできました。新しい障害分野である高次脳機能障害には、特に社会参加の場面でまだまだ通所先すら少ないことを実感してきました。

10年を迎えたVIVIDは、就労継続支援B型事業所を開所する結論を出しました。日頃の活動にご理解ご支援をいただいている皆様にもお知らせし、ご賛同を募る中で、若い世代のスタッフの確保の見通しも立ちました。

事業所の名称は「フレッシュスタート目白」です。再出発、そして新しい出発の場所としてここは通所する人も支援するスタッフも一緒に仕事をつくり出す社会の資源です。

これからの10年が、今、こうして始まろうとしています。

10周年に寄せて



VIVIDの10周年を祝して

三軒茶屋リハビリテーションクリニック 長谷川 幹

VIVIDの10周年おめでとうございます。

池田さんが重度の高次脳機能障害の息子さんを亡くされた後、その経験を生かせる場としてVIVIDを始められたと聞いています。そのエネルギーは年を追うごとに膨らんでいるようです。

新宿区と提携してデイサービスを立ち上げ、高次脳機能障害の講演会を継続し、2008年には東京高次脳機能障害協議会(TKK)加盟団体の会員25名にインタビューに行き、それをまとめるため開いた事例検討会に私も参加し、1事例1~2時間で何日もかけて分析しそれを各個人に報告さ

れました。そして、5~6年後に再度訪問し、検討内容が適切であったか、などの検証を行い、それを「25人の事例研究報告書」にまとめられました。さらに、この中から6家族を支援者とともに再度インタビューをして雑誌に実名、写真付きで1年間連載するまでになりました。企画力、粘り強さはともかくそれぞれの人との信頼は強い絆で結ばれています。私はそばで大いに勉強させていただき、そのエネルギーを分けてもらい感謝申し上げます。

今後、VIVIDのみなさんがますます活躍され、地域に高次脳機能障害者の理解の促進と活躍の場が広がることを期待いたします。



NPO法人 VIVID 設立10周年 おめでとうございます！

東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科 渡邊 修

NPO法人 VIVID 設立10周年、誠にありがとうございます。長年、貴会を支えてこられた患者さんとそのご家族に、心より尊敬を申し上げます。

私は、東京の西に位置する多摩地区で高次脳機能障害専門の外来を行なっていますが、通院されてこられる患者さんの中には、VIVIDを利用されている方も複数おられたので、VIVIDのご活動を間接的に聴いておりました。その中で、私が特に気にとめたのは、「寸劇」をされていることでした。グループ療法の効果には、多くのエビデンス(証拠)があり、①コミュニケーション能力、②他人の言葉に

傾聴し理解する能力、③非言語的な意思伝達(視線、態度)能力、④感情のコントロール能力、⑤社会のルールの学習能力、⑥他者との協力能力、⑥自己のアピール能力、などの向上が期待されています。しかし、VIVIDが取り組んでいる「寸劇(リーディング劇)」には、さらに、「他者の気持ちを察する」という、社会脳といわれる前頭葉機能の中でも、特にリハビリテーションが難しい「心の理論」のトレーニングになると感じました。おそらく、じわじわと効果をあげていることと思います。

高次脳機能障害者支援には、地域における多職種による「協業」が必須です。VIVIDが、さらに地域の核となり、協業の輪を広げていただきたいと思います。



VIVID10周年に寄せて

はしもとクリニック経営 橋本圭司

私が2009年2月に国立成育医療センターに転勤になり、その後の活動をどうしようかと検討していた矢先に、オレンジクラブ⇔VIVIDのリハビリ公開講座のお話をいただきました。何としても、高次脳機能障害者の通所プログラムのスピリットだけは継承し続けたいと思っていた私たちにとって、こんな有難いお話はありませんでした。

2か月に1回の公開講座は、講座1で集団認知行動プログラム「羅心版」を実践し、講座2では各スタッフの講義といった内容でした。自分に障害がある人も、同じ障害に

苦しんでいる人を助けることができます。むしろ、同じ障害だからこそ、助けることができるのです。患者や周囲の人々は、障害があることを嘆き苦しむあまり、何とかもと通りに戻ることをばかりにこだわってしまいがちになります。しかし、リハビリテーションの本当の意味は、もと通りに戻ることでなく、そのような苦難に出会ったときに、いかにそれと向き合い、自分自身が、今日、明日から何ができるかを問いかけることではないかと思うのです。そのような活動に賛同してくださったVIVIDさんの10周年を心からお祝い申し上げます。

10周年おめでとうございます

大塚 みどり



私たち親子、VIVID に出会い大きく変化しました。
あれから 10 年！
当事者も家族も意欲のある魅力的な人たちです。
みな人生を楽しむことを知っていましたし、求めています。

プログラムについて、「継続的に積み重ねられ、モチベーションや成長につながるものも！」と提案。早速そのような活動が始まりました。
この団体、驚くべき行動力です。

その1つのリーディング劇を2年目から一緒にやらせてもらい、現在は8回目の発表に向け共に楽しみつつ精進しています。

みんなと共にプログラムを楽しんでいるだけで、多くの気づき、感動をいただき、眼を見張る成長を目のあたりにしてきました。
みんなのポテンシャルの高さに驚くばかりです。

そして何より演技に味がある！わたしの固定観念は見事に覆され、これがまた面白くてしかたありません。
教えているつもりが、いつのまにか教えられています。
人間は誰でもみな素晴らしい可能性を秘めている。

こういう根源的なことを、気づかせてくれたのが VIVID の活動です！
ほんとにありがとうございます。
これからセカンドステージに向けてまた共に歩みたいと思います。
感謝をこめて

10周年 おめでとうございます！！

川口 宏美



ミニディで音楽を担当して4年目になります。専門は声楽ですが、和太鼓・笛など日本の芸能を長く続けてきたこともあり、新年会・発表会にも楽しく参加させていただいています。

VIVID に会うまで、高次脳機能障害について何も知りませんでした。でもそれは遠い知らない世界なのではなく、明日の私に起こるかもしれない身近なことでした。

初めてミニディを見学した日、当事者の皆さんと一緒に過ごし、スタッフ・ご家族の皆さんとお会いして、VIVID 設立の趣旨というリーフレットの内容が、私の中にストンと入ってきたことを覚えています。音楽を聴き 体を動かし 歌い 楽器に触れ「あっ」と何かを感じる・気づく・思い出す。そんな瞬間を大切にしたいです。これからも宜しくお願いします。

森 あずさ



私が加勢田先生にご紹介いただいて初めて VIVID にお邪魔したのは、2010年のことでした。その頃はまだ10代、20代の若い人たちが中心で、キラキラとした活気にあふれた会だなあという印象を持ったことを思い出します。

気づけばもう7年。毎年みなさんと一緒に“今年の目標”をたて、「旅行に行けたよ！」「一人暮らし始めました！」「就職しました！」という嬉しい報告もたくさん伺うことができました。

認知リハビリのなかで皆さんに伝え続けたこと—“失敗しない環境を作る”。自分で自分の状態を知って、言葉で相手に伝えられるようにしておくことで周りの協力も得やすくなります。

どうか、自分で自分の幸せを作れる人になってください。そしてキラキラした人生を楽しんでください!!



VIVID と折紙 と私

水上 晴美



2014年、友人から VIVID で折紙をリハビリに取り入れている事を知り、折紙を教える機会をいただきました。

折紙は最近、指先を使い順序を追って作業することから脳への良い影響が注目され、世界中で関心が高まっています。

今まで私は幼児から高齢者、外国の方などへ教えてきました。そして楽しい事をしている時の人の集中力にいつも驚かされてきました。

高次脳機能障害の方々へどのように教えたらいいか、池田代表のお話しや前の作品を参考に考えました。1つだけ気をつけた事は一人一人の自由な発想、個性が出る作品を選ぶようにする事です。また作った後も自宅で飾ったり、発表会に出品し1年を振り返ることができるのも折紙の良い点です。

これからもコミュニケーションのツールとして折紙が更に機能するよう役割を果たしていきたいと思っています。

10年のあゆみ

設立総会

すべてはここから始まった



年2回の啓発セミナー



新宿区からの委託事業
毎回、多くの専門家、当事者の方に参加いただいています

オレンジクラブ⇔VIVID リハビリ公開講座



1年に1~2回の外出企画



毎回楽しみにしています。
これからもお願いします。
(Miki)

お囃子（はやし）で盛り上がるミニデイ新年会 小中学生のみなさんありがとう！



どんどん仲間が
増えて嬉しいです!!
(佐藤 文)

ウルトラ大好き!!!!な
VIVIDさん♡これから
もよろしくです♡
(いそこ)

折り紙



ミニデイを中心に 10年のあゆみを写真と ミニデイ利用者さんの声で 振り返りました



全員の力の結集！毎年発表してきたリーディング劇



VIVIDは、私の心の
オアシスです。
(山本 祐司)

毎年、朗読劇に
出るのが楽しみ！
(太田 慎佑)

リハビリ
頑張っています。
VIVIDのおかげで
随分良くなりました。
(友行 伸二)

みんな楽しみ！調理実習



VIVIDは新しいお
友達を作れる場
だね！
(大塚 麻美)

「おかいどく」逆さに読むと？
(田中 策士)

一度きりの人生、
無駄にしない。
(矢野 和久)

参加して6年。
最近メンバーが増えて、
私にとっての貴重な場です。
(関根 信太郎)

楽しいこと、大好き！ここに
来て幸せな気持ちになれる
のが、とっても幸せです
(みやぎ ゆり)

大学を卒業して大人
の仲間入りして1年。
充実してきました。
(元やんちゃ坊主)



誕生日には、一言ずつほめてお祝いします

音楽の時間



いろんな楽器に触れながら、楽しい時間を過ご
しています

認知リハビリ



トロ・クリスマスバージョン か〜わいい〜！



年表で振り返る10年

2006年

任意団体として活動開始

2007年

特定非営利活動法人 VIVID 設立

2008年

VIVIDBOOK シリーズ1「あっち側から見たこっち側（高崎陽子著）」発刊

広報紙 VIVID LETTER 創刊

障害理解のためのセミナー開催

以後、セミナーを毎年2回開催

ミニデイサービスを試行

2009年

新宿区協働事業「高次脳機能障害支援事業」として、ミニデイサービス、高次脳機能障害なんでも相談、普及啓発セミナーを実施

2010年

ミニデイのプログラムを「自立支援のための生活スキルプログラム事例集(2011年発行)」としてまとめる

2011年

「高次脳機能障害支援事業」が新宿区協働事業から委託事業に移行

2013年

「障害者の支援計画づくり講座全6回」を実施。報告書を発行

2014年

「自立支援に向けて～一人暮らしの体験と訓練のためのサポート事業（試行）報告書」発行

指定特定相談支援事業所「高次脳機能障害相談支援 VIVID」開設

2015年

出張相談スタート

新規事業プロジェクト設置

「高次脳機能障害者の在宅生活実態調査 25人の事例研究報告書（2008-2014）」発行

2016年

第2次新規事業プロジェクト設置

2017年

就労継続支援 B 型事業所「フレッシュスタート目白」開所準備

ミニデイのあゆみ

2008～14年 音楽セラピー

2009～10年 オレンジクラブ⇔VIVID 公開講座

2010年 「幸せの予感」をみんなで作詞

朗読劇の取り組みスタート「あらしの夜に」

2011～16年 認知リハビリ

2011年 朗読劇「ゼロ弾きのゴーシュ」

2012年 朗読劇「注文の多い料理店」

2013年 リーディング劇「聞き耳頭巾」

2014年 リーディング劇「二十一夜待ち」

2015年 リーディング劇（VIVID 寄席）

「松山鏡」「たいらばやし」

2016年 落語 ザ・リーディング劇（VIVID 寄席）

「やかんなめ」「道具屋」「本膳」

2017年 第1回大運動会

※年は年度標記です

～10年の間に関って支援してくれた人たち～

感謝を込めてお名前を掲載いたします（ご許可をいただいた方のみ・敬称略）

赤松俊太、安達美登、荒畑正子、牛越千鶴、緒方彩、熊崎俊孝、源甲斐照美、佐々木絹子、周藤方史、平良剛志、田中節子、田中千鶴子、中野裕実、梨本しげみ、檜谷照子、古庄由利恵、梁川統史、涌井久美子

10周年記念イベント

毎年3月に開催しているミニデイの発表会を、10周年記念イベントのメインに行います。

—ミニデイでの練習の成果を、いつもよりちょっと大勢のお客様の前でお披露目—

時間訂正!! 開始時間は13:00

日時：3月10日（土） 13:30～15:45

場所：新宿区四谷地域センター 多目的ホール
（新宿区内藤町87番地 四谷区民センター12F）

プログラム：

あいさつ

落語 ザ・リーディング

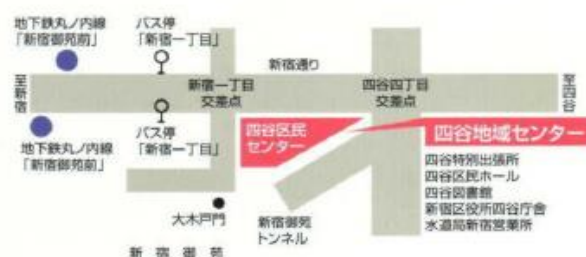
10年のあゆみ（スライドショー）

「私の十八番」発表

当事者の方のお話（予定）

合唱

案内図



VIVID 活動レポート

2017 年 7 月 1 日開催・セミナー報告

「高次脳機能障害者の就労にむけて～PART II」

昨年 11 月のセミナーに続く高次脳機能障害者の就労の第 2 弾として企画した。

第 1 部は、「家族の支援」をテーマに、ハイリハ東京代表の小澤京子さんから、息子・希予志さんの受傷から就労に至るまで家族の体験が話された。高校 1 年生 16 歳のオートバイ事故で、びまん性軸索損傷、外傷性くも膜下出血等で緊急入院し、右片麻痺、失語症、高次脳機能障害、視野狭窄等の後遺症が残った。その後、高校を退学後定時制高校に転校し大学に入学した。卒業まで 8 年かかったが、友人の支えや地域の人が勉強を教えてくれる等のサポートがあった。家族は、当初大学までの送り迎えをしていたが、友人を家に招いたり家業の手伝いなどを促しながら、私生活には口をはさみずに見守っていた。当事者会「ハイリハ東京」の活動は、同世代との交流や情報交換にもなっている。職業リハビリテーションセンター通所では、パソコンの使い方、コミュニケーション訓練等を終え就職につながった。また、旅行での兄弟との関わりや、地域の祭りでの神輿担ぎ、趣味のギター演奏などが、仕事以外の生活を豊かにしていたとの思い出も話された。



小澤京子さん親子



竹田純子さん

第 2 部は、特例子会社の株式会社 OKI ワークウェルの竹田純子さん（障害者雇用のチームマネージャー）から、自社社員の復職支援を報告いただいた。同社では、通勤社員 33 名と通勤困難な在宅勤務者 50 名が、HP 作成、web アプリケーション開発、名刺印刷などを行なっている。高次脳機能障害者にはメモリーノートを活用し、作業指示や作業開始時の確認・終了までの内容を、その人に合わせて記入する方法で作業定着を図っており、ノートは 8 年間で 17 冊におよぶ。体調の変化により作業を変更する場合には、職業センターのカウンセラーやジョブコーチと連携し、場合によっては集中的に支援し、復職時には、簡易な仕事の切り出しや、質問しやすい環境設定の提案を行なっている。また、他の社員との交流の機会をつくったり、生活面も含めてチームでサポートしていることが紹介された。

小澤さんが親として「障害を覚悟して淡々と接したこと」「やり直しができる」ことを語り続けてきたことに、会場からは共感が広がった。竹田さんの報告を受けた

アンケートには、区や事業所内での他職種の連携、特に就職後の支援としての「ジョブコーチ（職場適応援助者）」や地域の社会資源の活用などが必要と書かれていた。改めて地域資源を活用して重層的な支援が必要だと確認したセミナーとなった。

文責 安部

次回セミナーのお知らせ

高次脳機能障害の就労にむけて PART III

日時：11月18日(土) 13:00-16:00

場所：新宿区四谷地域センター 多目的ホール

(新宿区内藤町 87 番地 四谷区民センター12F)

※地図は 6 ページ参照

対象：高次脳機能障害の支援者・専門職

内容：講演「就労支援におけるジョブコーチの役割」

西村 周治さん（世田谷区立障害者就労支援センター
すきっぷ所長）

報告「ジョブコーチの支援をうけて～家族・当事者
から」

太田 三枝子さん（家族）

OPEN

事業所名
決定!

就労継続支援 B 型事業所

フレッシュスタート目白 開所予定

目白駅から歩いて 10 分。下落合の一角に、リサイクルショップを併設した事業所を、2018 年 4 月に開所予定。

個々の主訴やニーズに基づいた個別支援計画を作成し、作業支援及び生活支援を行います。

開所日程：月曜日～金曜日（祝日を除く）、夏季、年末年始の休業あり。午前 10 時～午後 4 時

利用者大募集!!

高次脳機能障害、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害の方など。手帳の有無は問いません。送迎はないので、公共交通などをご利用ください。対象年齢は、18 歳～65 歳です。詳しくはお問い合わせください。

スタートに向けてあと一息?!

2015 年からプロジェクトを組んで、新規事業にどんな事業がよいかを検討。16 年には B 型に取り組むこと、リサイクルショップを併設した事業所にすることを決定。

今年は、準備会を立ち上げ、事業概要を決め、寄付集めに奔走。事務所も契約も終わり、あとは内装工事、認可のための申請作業、そして引っ越しです。

オープンの際には、リサイクルショップのオープンセールを予定しています。

法人事務所も同じ場所に転居します（電話番号も変更予定）。乞うご期待!

（12 月中に入居）

新住所：〒161-0033

新宿区下落合 4-20-16 ソレイユ目白 103

ご寄付のお願い

新規事業「フレッシュスタート目白」開設のため、ご寄付を募っています。

現在、多くの方から約 300 万円のご協力をいただいております。ありがとうございました。設備の整備のため、ひとまわり広くみなさまにご協力いただければ幸いです。

●募 集 総 額 500 万円

●一口 1 万円 何口でも（上限なしです）

<振り込みの場合・振込先>

【銀行口座への振込の場合】

三井住友銀行 国立支店

普通 7907442

名義 特定非営利活動法人 VIVID

※新規事業への寄付であることを、お手数ですがご連絡ください。

【郵便振替口座への振込の場合】

郵便振替口座 00130-7-780312

加入者名 特定非営利活動法人 VIVID

※通信欄に、「新規事業への寄付」とご記入ください。

会員募集

VIVID の活動趣旨に賛同し、会員、賛助会員になっていただける方を募集しています。

年会費 会 費 個人 5000 円 団体 10000 円

賛助会員 個人 5000 円 団体 10000 円

ボランティア募集

ボランティアとして活動に参加いただける方を募集しています。

詳細はお問い合わせください。

特に B 型事業所
で大募集

ボランティア
スタッフ

ボランティア、スタッフからの一言

◆VIVID は、楽しい人との交わりがあり、楽しく何かをする、できるようになる場所だと思います。利用者さんの求めに寄り添い、また進化する VIVID。それを柔軟に受けとめる利用者さんとのコラボから、さらにパワフルな楽しさを期待しています。（阿南えり）

◆「私、変になっちゃった」30 年前、脳腫瘍の手術後の電話口での友人の訴えに、当時何も応えられず黙ったままでした。障害を受容するとは？と自身にも問いかけ、一人ひとりが当たり前の暮らしができ、家族も自立できる支援をと模索しながらの毎日です。（安部宝根）

◆人生はめぐり合わせだ。私と VIVID の出会いもそのひとつ。出会ったからには力を注ごう！どんな「力」かは不確かだけど、そこそ役には立つだろう。まわりの助けがあれば何でもできる気がしてくる。きっと。（金尾敏恵）

◆ある精神科 Dr の言葉「脳損傷がなくても個人の高次脳機能にはかなりの差がある。しかし自己を実現する、役割を発揮し

ていくことに、能力は関係ない」を常に心の支えとし、私の乏しい能力でもできることがあると信じ、VIVID の新たな事業に力を尽くしていきたいと思います。（北古賀克美）

◆月並みだが「あつという間の 10 年」だったと感慨にふけっている。その分「自分も年を取った」ということをあつさり忘れて。障害者支援には素人の集団だったが思いだけは熱かった。この思いに後押しされて無謀ともいえる法内事業の開設に踏み切ろうとしている。実現までにあと少しの努力が必要。がんばれわたし達。（北村とし子）

◆VIVID との出会いは 10 年前。この間ずっと VIVID の広がりや深まりを感じてきました。そして、新事業へ向けた新たな船に私も一緒に乗ります！“いつどこで 何をしてても みんなひとつに つながっているよ だから 行こう！”（込山愛香）

◆約 10 年間、相談員として、当事者とご家族の方々に関わらせていただきましたが、お役に立てたか、甚だ疑問です。それよりも、私自身が多くのことを学ばせていただいたと感謝しています。障害も一つの個性と捉え、これからも人生前向きに歩んでくださることを願っています。（宮崎秀子）